

2022年11月期 決算補足説明資料

ティアンドエス株式会社
(東証グロース 4055)
2023.1.13



T & S
Technology & Service

2022年11月期 通期

ハイライト	p. 3
決算概要	p. 4
営業利益の状況	p. 6
カテゴリー別売上高	p. 7
取引先別売上高	p. 8
四半期別売上高・営業利益	p. 9
事業環境	p. 10
エンジニアの増員状況	p. 11
損益計算書	p. 12
貸借対照表	p. 13
通期業績予想	p. 14
株主還元	p. 16

(今期のテーマ) 成長の加速

1 過去最高収益を達成 (過去同期比)

売上高	: 32億56百万円 (19.2%増↑、増加額: 5億24百万円)	(前年同期比)
営業利益	: 6億17百万円 (49.6%増↑、増加額: 2億 4百万円)	(同)
経常利益	: 6億26百万円 (49.3%増↑、増加額: 2億 6百万円)	(同)
当期純利益	: 4億40百万円 (49.5%増↑、増加額: 1億45百万円)	(同)

2 先進技術ソリューションが躍進。その他のカテゴリーも順調推移

- ▶ 先進技術ソリューションカテゴリーの売上高が前年同期比**44.9%増**と躍進。AI関連の研究開発支援サービス、画像処理アルゴリズム開発などの継続受注や新規の外観検査システム開発が順調に推移。前期に引き続き堅調な日本電気株式会社等の既存取引先からの案件に加え、オムロン株式会社との取引も増え、全社に占める当カテゴリーの売上構成比は前期6.1%から、当期7.4%へ拡大。
- ▶ ソリューションカテゴリーの売上高は前年同期比**15.6%増**。主要取引先からの受託開発案件の受注が引き続き堅調に推移。特に、主要取引先である半導体メーカーからの工場内システムの大型開発案件が寄与。
- ▶ 半導体カテゴリーの売上高は前年同期比**26.0%増**。好調な半導体市場を背景に主要取引先からの継続的な受注が順調に加え、さらなる増員要請があったことにより半導体工場における保守・運用サービスに係る派遣エンジニア数が堅調に推移。

3 2023年11月期も好調を継続。過去最高収益**更新**の見通し

売上高	: 37億円 (前年実績比 13.6%増 ↑、増加額: 4億43百万円)
営業利益	: 7億円 (前年実績比 13.3%増 ↑、増加額: 82百万円)

決算概要

2022年11月期 通期

過去最高収益を達成

(過去同期比)

売上高	: 32億56百万円 (19.2%増↑、増加額: 5億24百万円)	(前年同期比)
営業利益	: 6億17百万円 (49.6%増↑、増加額: 2億 4百万円)	(同)
経常利益	: 6億26百万円 (49.3%増↑、増加額: 2億 6百万円)	(同)
当期純利益	: 4億40百万円 (49.5%増↑、増加額: 1億45百万円)	(同)

(単位:百万円)

売上高



(単位:百万円)

営業利益

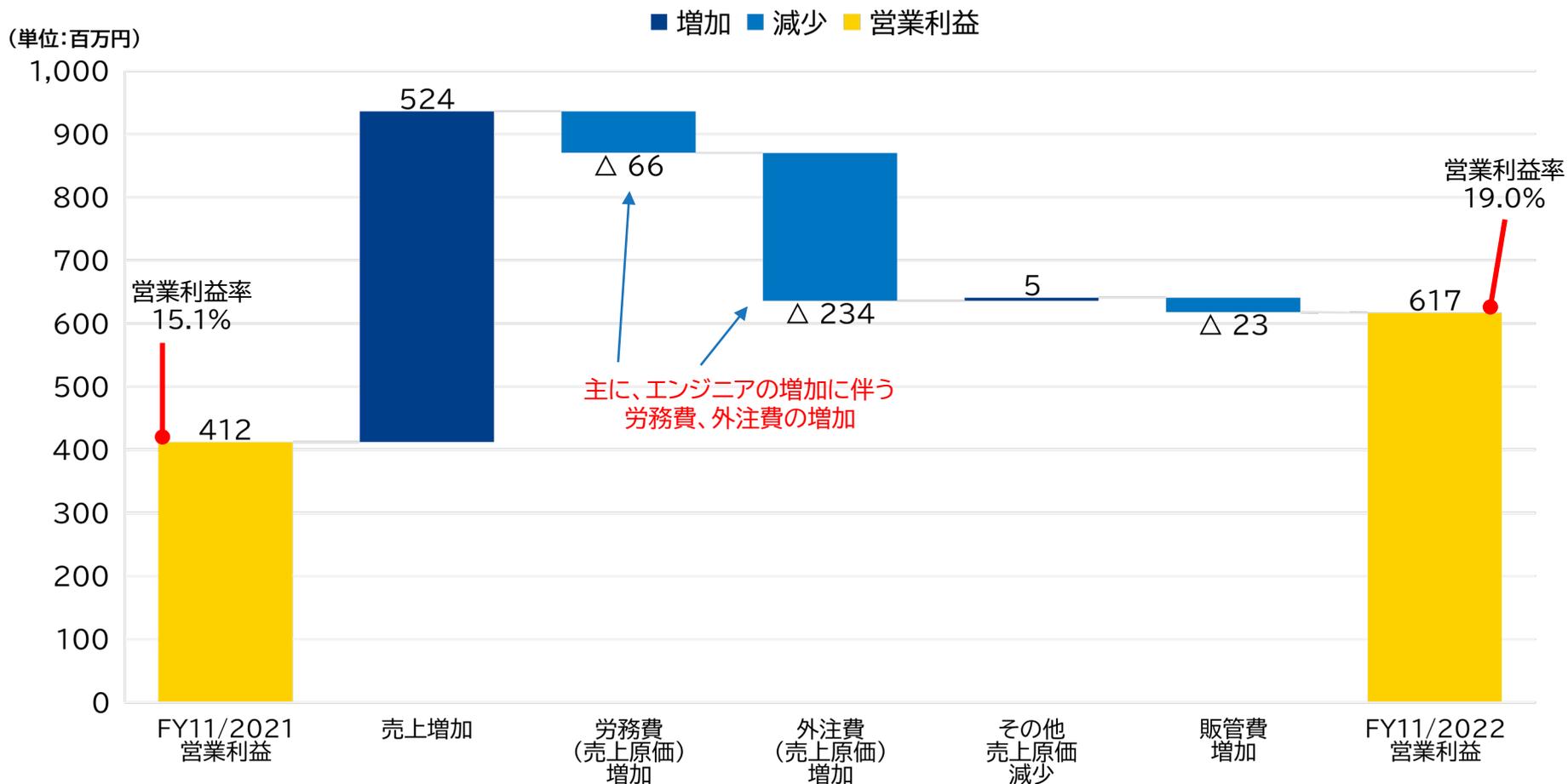


※好業績に鑑み、従業員向けの業績連動賞与をFY11/2022に61百万円、FY11/2021に60百万円計上しています。

営業利益の状況(FY11/2022)

業績連動賞与^(※)を吸収し、2億4百万円の営業利益増

(前年同期比)



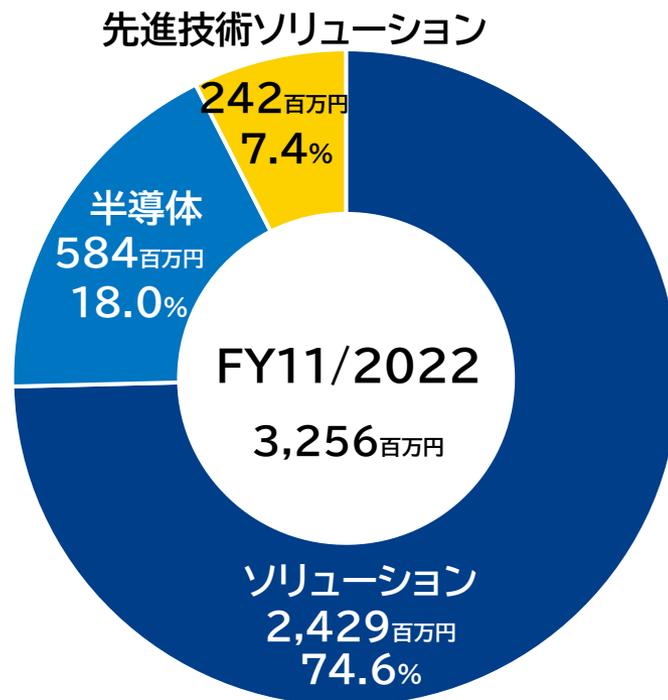
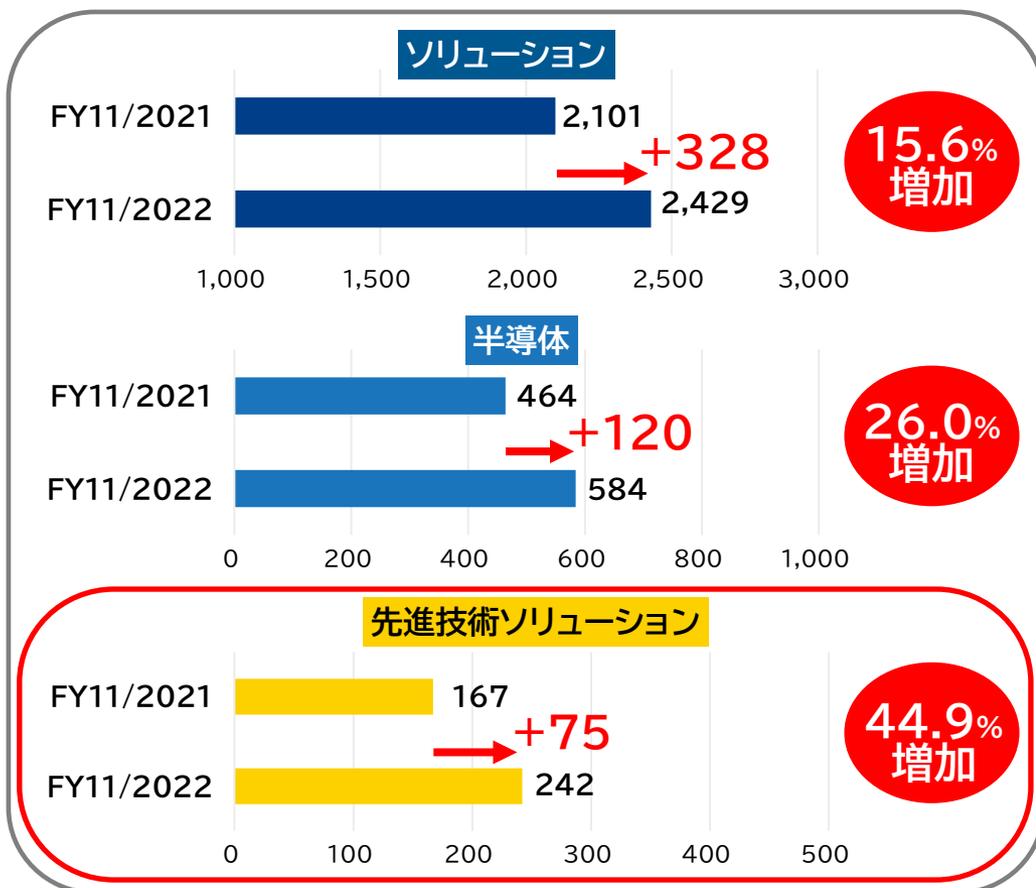
※FY11/2022に61百万円、FY11/2021に60百万円計上しています。

カテゴリー別売上高(FY11/2022)

全てのカテゴリーにおいて増収
先進技術ソリューションは**44.9%増加**
(前年同期比)

売上高(カテゴリー別) (単位:百万円)

売上比率(カテゴリー別)



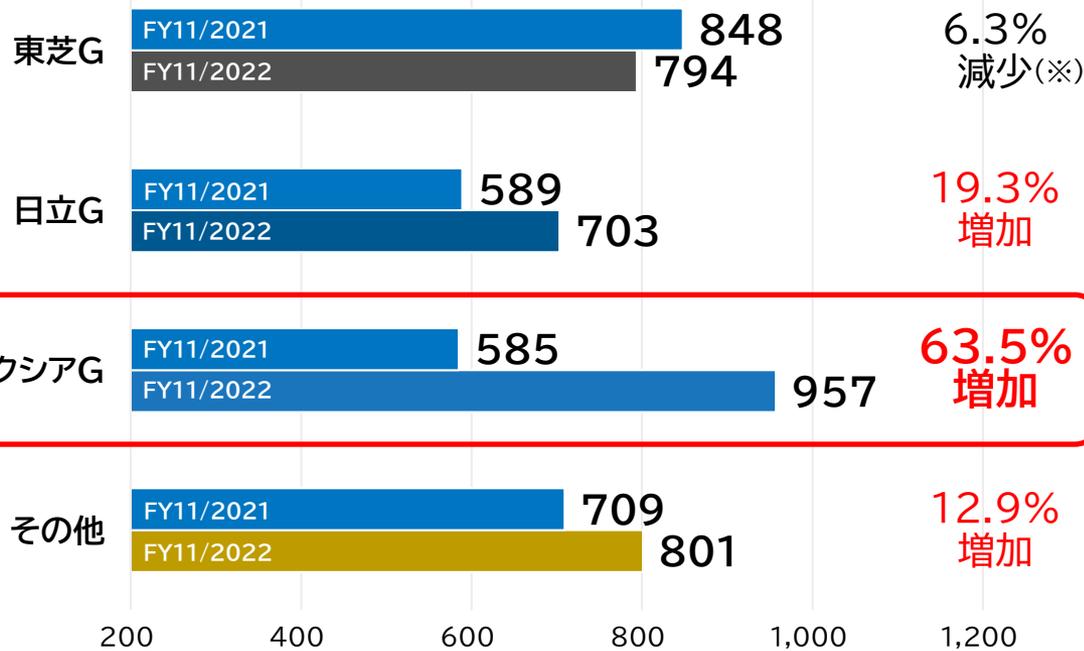
(注) 当社の事業セグメントは単一セグメントです。売上高のみカテゴリー別に集計しております。

取引先別売上高(FY11/2022)

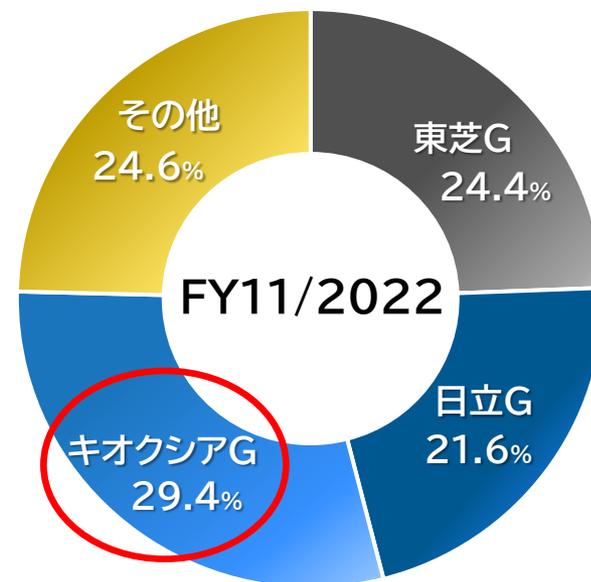
東芝G、日立G、キオクシアG

主要取引先は安定して推移
キオクシアGの増加が著しい
(63.5%増加(前年同期比) 構成比29.4%)

売上高(取引先別) (単位:百万円)



売上比率(取引先別)



(※)東芝Gの再編に伴い、第3四半期よりキオクシアエンジニアリング(株)(旧:中部東芝エンジニアリング(株))に対する売上高124百万円をキオクシアGとして集計しています。これを考慮すると、東芝Gに対する売上高は実質8.4%の増加になります。

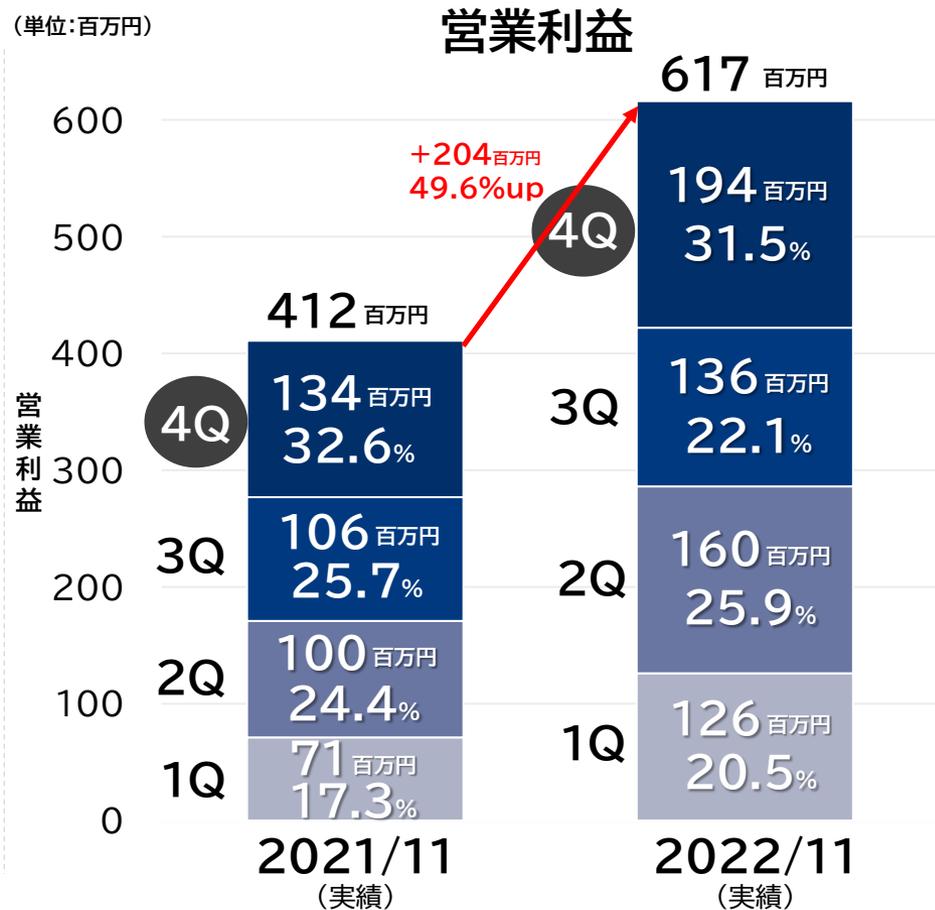
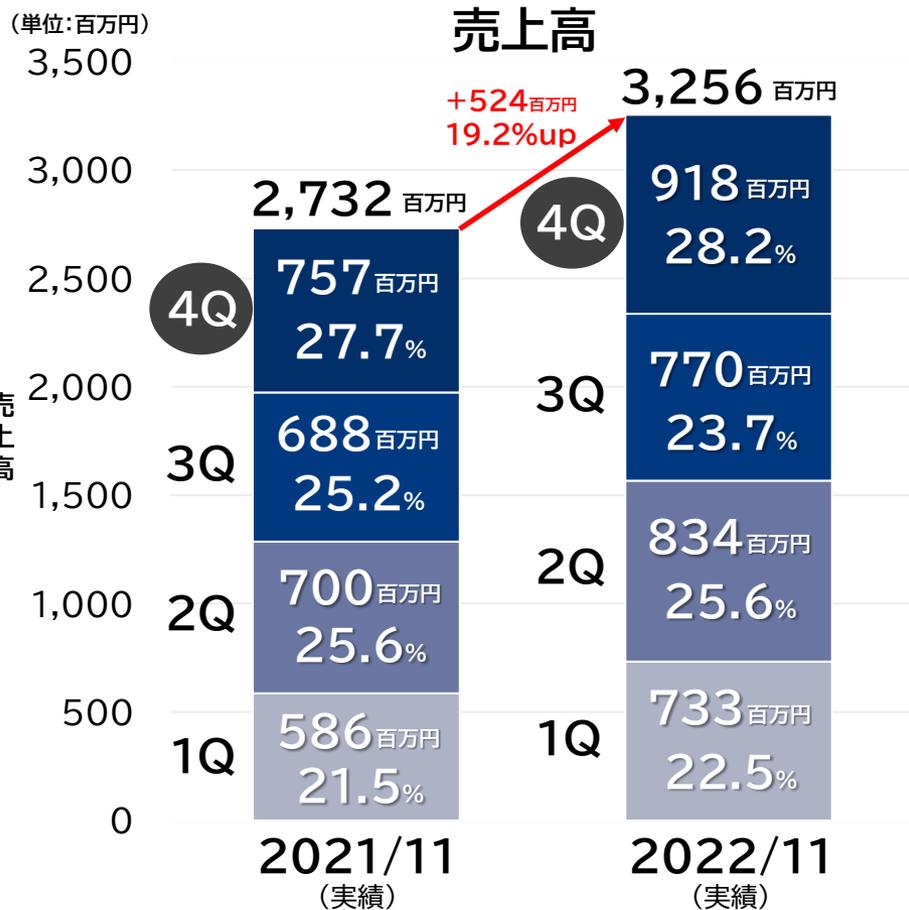
四半期別売上高・営業利益 (FY11/2022)

通期売上高：32億56百万円

増加額：+524百万円 19.2%増加
(前年同期比)

通期営業利益：6億17百万円

増加額：+204百万円 49.6%増加
(前年同期比)



※当社の業績には、エンジニアの増員状況や案件の納期の関係で若干の季節変動が見られます。

当社主要取引先の動向

(2023年1月13日現在)

当社を取り巻く事業環境は引き続き好調。一服感がみられるとも言われる半導体業界も、中長期的な投資意欲は旺盛。各社とも、新型コロナウイルスの影響は克服しつつある一方、地政学的リスクへの対応が課題となっています。

東芝G

エネルギーシステム、インフラ関連の売上が伸長。なかでも、当社がシステム開発を手掛ける発電所関連のエネルギーシステムソリューションセグメントが好調であることは、当社にとって追い風とみています。

日立G

デジタルシステム&サービス、クリーンエネルギー&モビリティを中心に受注が堅調。当期利益は過去最高の見通し。当社業務に関連する社会インフラ関連の設備投資もコロナ禍における抑制傾向から一転、増加傾向にあります。

キオクシアG

PC・スマートフォン向け等、旺盛だった半導体需要の反動により、足元では3割の生産調整の動き。当社の関与する工場システムの保守運用は操業度との関連は薄いため、影響は軽微。また、フラッシュメモリー市場の中長期的なトレンドは継続して拡大傾向にあり、国から多額の助成金が交付されるなど新規の設備投資意欲は旺盛で、当社にとってはシステム開発の受注拡大が期待されます。

その他

AIアルゴリズム開発の研究開発の分野において、自動車関連メーカ、精密機械メーカ、通信インフラ企業などの研究投資意欲が旺盛。コロナ禍の中でDX化、省人化の流れが加速しており、当社への引き合いが拡大しています。

(各社の公表資料、及び新聞報道より作成)

社員エンジニアに加え、BP^(※)戦力を拡充

社員エンジニア 増員率

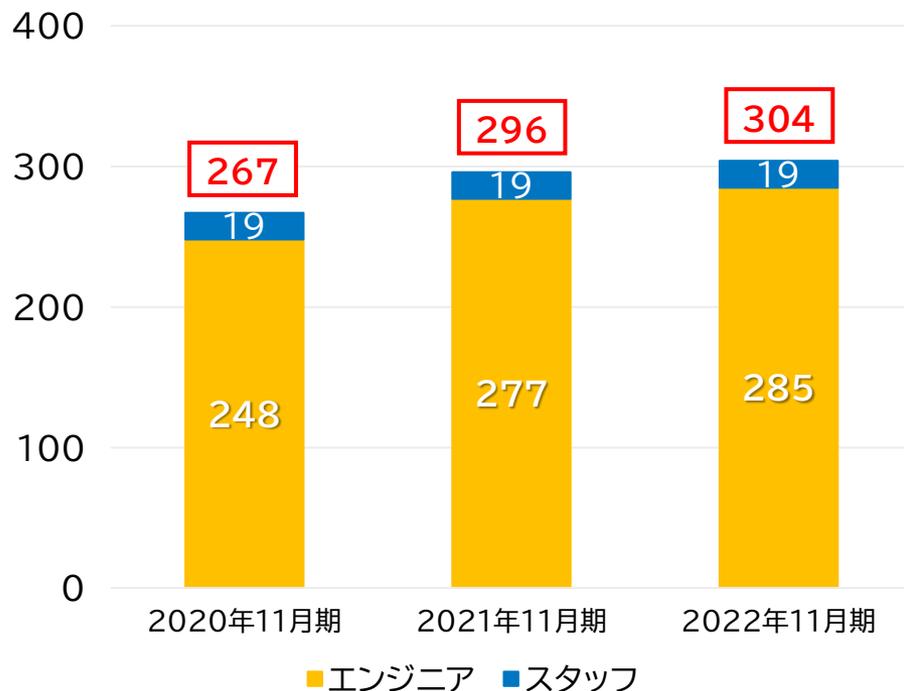
2.9%

BP発注件数 増加率

31.1%

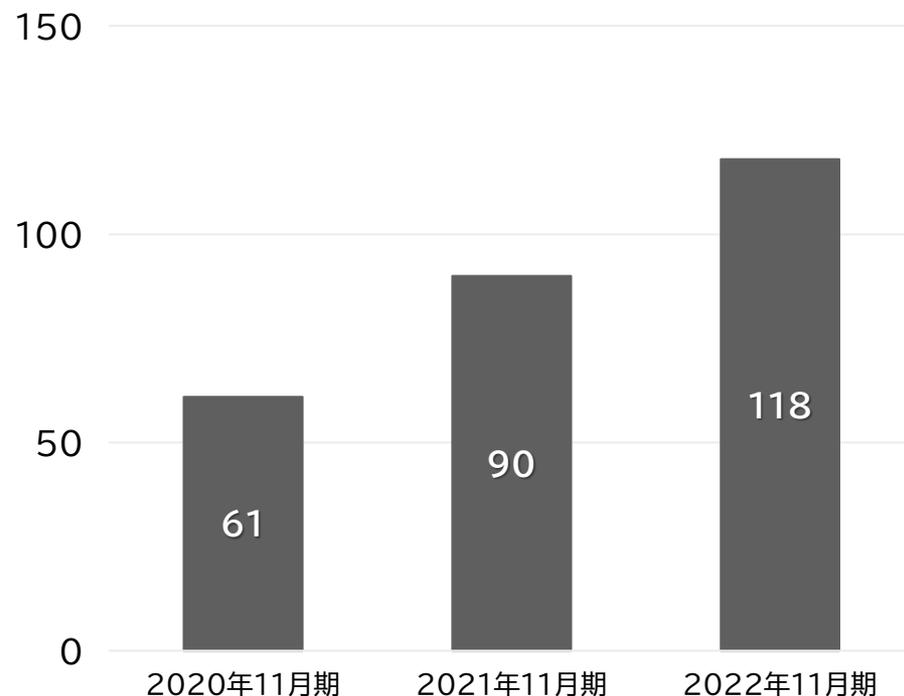
従業員数 推移

(単位:人数)



BP発注件数 推移

(単位:件数)



※BP…ビジネスパートナー。業務委託等の形態で当社業務に従事するエンジニア

損益計算書(FY11/2022)

単位:千円	FY11/2021	FY11/2022	増減額	増減率
売上高	2,732,771	 3,256,855	524,083	19.2%
売上原価	1,947,231	2,243,118	295,886※	15.2%
売上総利益	785,539	1,013,736	228,196	29.0%
販売費及び一般管理費	372,587	395,823	23,236※	6.2%
営業利益	412,952	 617,913	204,960	49.6%
(営業利益率)	(15.1%)	(19.0%)		
経常利益	419,328	 626,244	206,916	49.3%
(経常利益率)	(15.3%)	(19.2%)		
当期純利益	294,567	 440,238	145,670	49.5%
(当期純利益率)	(10.8%)	(13.5%)		

※好業績による従業員への業績連動賞与FY11/2022に61,000千円、FY11/2021に60,000千円を含んでおります。

貸借対照表(FY11/2022)

単位:千円	FY11/2021	FY11/2022	増減
流動資産	1,869,946	2,110,767	240,820
固定資産	117,500	170,732	53,231
資産合計	1,987,447	2,281,500	294,052
流動負債	440,851	498,233	57,382
固定負債	51,513	49,763	△1,750
負債合計	492,364	547,996	55,631
株主資本合計	1,495,082	1,733,503	238,420
純資産合計	1,495,082	1,733,503	238,420
負債純資産合計	1,987,447	2,281,500	294,052

通期業績予想

2023年11月期 通期

(テーマ) 成長の継続

2023年11月期も好調を継続で過去最高収益更新の見通し

単位:百万円	2022年11月期 (実績)	2023年11月期 (予想)	増減額	増減率(%)
売上高	3,256	3,700	443	13.6%
営業利益	617	700	82	13.3%
経常利益	626	703	77	12.3%
当期純利益	440	495	54	12.5%

全社
 すべてのカテゴリーにおいて好調に推移する見通し。既存の主力顧客からの開発案件の引き合いが堅調。費用構造に大きな変化はなく、技術者リソースを補うため外注の利用を増加させているものの、好採算案件へのシフトも見込め、営業利益率は18.9%を見込む。

ソリューション
 当社の主要得意先である大手企業3グループ(東芝グループ、日立グループ、キオクシアグループ)からのシステム開発案件が引き続き堅調に推移する見通し。

半導体
 半導体工場における足元での生産調整はあるものの、工場は安定して稼働、工場増設計画も続いており、工場における保守・運用サービスに係るエンジニア人材の供給が引き続き継続する見通しです。

**先進技術
ソリューション**
 大手メーカーからのディープラーニング技術に関するAI案件、ならびに画像処理アルゴリズム開発案件が引き続き拡大する見通し。AI関連の研究開発支援サービスの継続受注や新規受注が伸び、全社に占める当カテゴリーの売上構成比も拡大する見込みです。

株主還元

2023年11月期の配当性向も10%を目標とします

配当の基本方針

当社は、**将来の成長が見込まれる分野における新しい技術取得への投資を通じて企業価値を向上させる**ことを経営の重要課題と位置付け、これを実現することが株主に対する利益還元であると考えております。利益配分につきましては、企業価値向上を実現するために必要な内部留保の確保を優先しつつ、業績を考慮した適切な配当について継続して実施していくことを基本方針としております。

2023年11月期の配当につきましては、上記方針に沿って配当性向 10%程度の水準を目途に実施することとして、1株当たり6円55銭(55銭増配)を予想しております。

以上の施策を加味した財務指標は以下のとおりです。

	1株あたり配当金	配当性向	自己資本利益率 (ROE)
2022年11月期 (予定)	6円00銭	10.3%	27.3%
2023年11月期 (予想)	6円55銭	10.0%	25.3%

お問い合わせ先

ティアンドエス株式会社

経営管理部

Email / pr@tecsvc.co.jp

URL / <https://www.tecsvc.co.jp/>

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報については、現時点で当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現や将来の業績を保証するものではありません。経済状況の変化や一般的な業界ならびに顧客ニーズの変化、法規制の変更等、様々な要因によって当該予想と大きく異なる可能性があります。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。